

「どうぞ」の心

仲野小 六年 林田 昂大

「どうぞ」

僕はバスめ中でおとしよりや小さい子が席がなく立っているところを見かけると、必ず席をゆずるようにしている。

僕は学校が終わると、キッズアフタースクールという学童にバスで通っている。キッズアフタースクールは駅の近くなので、駅に近づくと、乗客が増えていく。駅前通りにはバスが入るころには、座りきれず立っている人が多くなる。そんな中におとしよりや小さな子達がいるのだ。

三年生の頃、同じキッズアフタースクールの子と一緒にバスになった時のことである。僕達は席に座っておしゃべりをしていた。バス停にとまると、ドアが開き、おばあさんが一人乗ってきた。空席はない。すると、突然友達が席から立ち上がり、こう言った。

「どうぞぞ」

その時友達がいつもとは違っていた。かっこいいなと思った。僕はこんな風になりたいなとも思った。

この時から僕はバスの中でおとしよりや小さい子を見かけると席をゆずるようになってた。「どうぞぞ」と声をかけることは、始めは勇気がいることだ。でも席をゆずられた人が「ありがとう」と言われると、とてもすがすがしい気持ちになる。人の役に立つということ

ことは、本当にうれしいことだ。

時には、席はいらないと断わられることもある。しかし、声をかけられてめいわくそうな人はいない。みんな笑顔で言葉を返してくれる。

僕はこれからも「どうぞぞ」の心を忘れずいろいろな場面で人の役に立ちたい。そして思いやりの心を大切にしていききたい。